

# 北海道旅行「見てある記」

千葉県香取郡大栄町

植田 文 吉

## はじめに自己紹介

思えば幾星霜前、若き青年の頃、希望に胸ふくらませ北海道十勝の拓殖実習場に入場し修練を受けて、その後虻田郡狩太町において農場を経営中、小森賢治先生の配慮を受け、戦前、農業技術員として前満州国立熊岳城農事試験場に奉職、途中大東亜戦争に衛生部員として従軍し、戦後赤十字国際愛を体験して復員帰国いたしました。その後、財団法人日本青年協会戦災者援護農場、岩手県立六原農場に奉職し、千葉県にある農村修練場が県の指導農場となり、その職員として勤務、そして郡の協同農場となり、戦災引揚者からなる一集団が結成され今日に及んでおります。

一方、家内は現雪印種苗上野幌育種場の前身であります出納農場の家事見習として娘時代に出納夫人の御指導を受けたというようなわけで、今回の北海道旅行はこのほかなつかしいものがあつたわけです。

なお長男は当地下総農業高校畜産担当員として奉職、次男は雪印乳業東京工場に勤務、私の乳牛は千葉の黒沢牧場より基礎牛を導入、今回は雪印種苗の千葉農場より分譲を受けるというような次第で、私共は文字通り酪農一家いや雪印一家と言わせてい

ただきたいのです。

## 雪印種苗の招きで北海道へ

今回関東地区採種組合代表者招待旅行として札幌近郊を視察させていただきまして、一行は千葉県香取郡小生と伴氏、茨城県八郷地区中島氏の三名です。

## スケジュールの概要

八月二十二日 十三時三十分 上野発  
八月二十三日 九時二十五分 札幌着  
有沢生産課長の案内で、雪印種苗江別飼料工場―同上野幌育種場―宇都宮牧場―農林省北海道農試畜産部等を見学―羊ヶ丘展望台を経て一定山溪で宿泊。  
八月二十四日

札幌市営観光バス(産業コース)を利用して北大―ビル会社―雪印乳業本社、同札幌工場―北大植物園等を見学、その後雪印種苗本社、同工場等を見学、五十嵐専務外幹部と面談―郊外の百景園を経て市内、雪印札幌会館で宿泊。  
八月二十五日

市内大通公園を見物散策して午前解散、その後一行は狩太へ。  
八月二十六日

狩太―函館を経てそれぞれ帰郷。

## 旅行記あれこれ

○八月二十二日早朝 子供が修学旅行にでも出発するような気持ちで家族の見送りを受け地蔵前出発、先ず雪印種苗の東京支店へ、上家支店長と昼食の後支店の高野、寺川両氏に見送られて上野を出発、特急「はつかり」の人となる。座席指定で気分は上々、一路青森まで北上、十時間程で青森着。

○真夜中に連絡船乗船、摩周丸一等の座席指定の客となる。津軽海峡は波静かにして初秋の風は肌にはさわやかで快適な旅が続く、午前四時半函館到着を知らせるドラの響き……。札幌の函館港の電燈がポツと浮かんでそぞろに異郷の地についての感慨にふける。

○二十五年振りに見る北海道の印象は今昔の感一入深くまことに感慨無量、五時発の千歳廻り特急「おおぞら」は小雨にけぶる函館を後に一路札幌へ；気候、風土、風俗習慣ことごとく異国そのままと言いたい；そして九時半札幌駅頭で生産課長に迎えられる。

## ○雪印種苗江別飼料工場へ

早速会社差廻しの乗用車で飼料工場へ向う。この飼料工場は創業十年というが、去る五月末新工場が落成したばかりの新鋭工場で、配合飼料製造の機械装置は、スイス国ビニラー社の設計並びに製作にかかわるもので、機械の運転は西ドイツ国エリコ社考案のコントロールデスク(パンチカードシステム)によるもので製造能力は月産三、〇〇〇トと言われている。

向田工場長よりパンフレットを渡され、直接案内説明を受けたが、さすがに先進国の技術導入の面目躍如たるもので、機械始

動から原料の補給、粉碎、精選、配合、秤量そしてその間の原料の品切れ、事故を生じた場合の自動停止まで、すべて完全自動制御装置であり、特に配合飼料製造の重要部門である原料の秤量、配合は正確無比を誇る道内唯一のパンチカードシステムによる完全オートメーション化された超近代工場であった。ここで飼料部長の本田さんにも面会出来た。工場の環境も整備されていて気持ちよく見学させていただいた。製造品目は乳牛用配合飼料、カーフミール、養豚、養鶏用配合等数多く夫々の規格も数多いようである。

## ○上野幌育種場へ

車中江別、野幌附近の屯田兵による開拓、煉瓦工場の話、この附近にある町村牧場と酪農家の経営内容、そして黒沢西蔵氏が園長である酪農学園の由来と現況等の説明を受けつつ車はすすべるようにして雪印種苗が誇る上野幌育種場へ。

三浦場長に迎えられ育種場産の新鮮なコクのある牛乳、鶏卵、とうもろこし(ゴールデンデンククロスパンタム)更には雪印のチーズ、バター、ブタ汁等いたれりつくせりの昼食で生産者代表の一人として招かれた感激を深くすると共に意義深い人生をここでも胸に刻んだ。

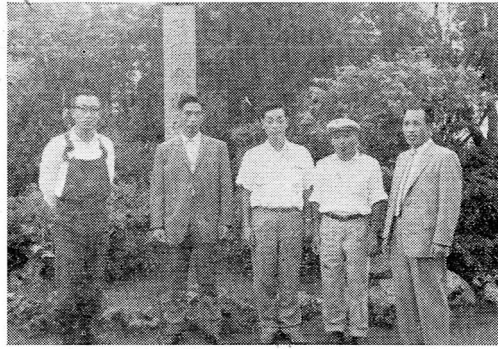
## ○上野幌育種場の見学

現場担当最高技術者である三浦場長は凛とした作業服で育種場の沿革と経営の概要を説明された。後育種場を一巡してその要点を解説して下さった。遠く恵庭、樽前の山々を望むいかにも北海道らしいこの広々として行き届いた育種場の面積は二三町歩という。

こう農場は大正年間デンマーク農業導入の先覚者出納陽一氏が個人の酪農場として

開設、その後昭和十四年「酪聯」の直営農場となり牛乳の生産加工を始めたところでもあり雪印乳業の佐藤貞現社長が自らハンドチャーンを廻してバターを造ったというから雪印乳業の前身「酪聯」発祥の地として由緒ある農場でもある。

昭和十六年以降種苗部門の農場となり爾來二十年、優良種苗の育種、検定、試作、原々種原種の生産、果樹花木の栽培そして飼料の研究室とこれが給与試験の畜産部門



上野幌育種場記念碑前で（中央は筆者）

迄極めて総合的で広汎な育種場ではあるが重点は、牧草、飼料作物で多収耐病などの優良系質を持った新品種の創出にあるといわれ既に牧草、青刈飼料、根菜類等では、二〇種に近い優良品種が作出普及されており、これらが「雪印のたね」として全国に販売せられておるわけで、牧草、飼料作物部門では全国に冠たる雪印種苗にこの農場ありせばと、うなずかれることばかりであり、私もあちこち歩いた一人として一民間

会社がこのような国家的事業を多額の経費を投じて行なっていることに驚異と心の底から敬意とを感じた。酪農家の一人としても心からうれしく感謝した次第でもある。

圃場を見せていただいた、たとえば赤クロパーにも随分たくさん品種系統のあることを知ったし、今育種している耐病性のもの、葉の五〜六葉もあるもの等将来が楽しまれる。

園芸種苗部門でも、果菜、葉菜、根菜類など北海道蔬菜品種の改善と優良種子生産の基盤確立のために努力されておる姿に接することができた。耐病性トマトの育成などアマダマ程の小さな果実のなる野性トマトと改良種とを幾度か交配して育てていくという地味な育種の陰の苦勞を知ることが出来た。一般に北海道特産蔬菜種子であるホーレン草、豌豆、枝豆、人参、そして特有の南瓜等に重点がおかれているように拝見した。

圃場での偉観は何といつても家畜南瓜マンモスボンキンの採種圃場であった。見渡す限りの圃場に黄ピンクに色づいた径七〜八〇センチで四〜五〇キもあろうと思われるカボチャが果々と重なり成っている様子は真に見事であった。

キング建ての大きな畜舎には高等登録牛が一四、五頭並んでいて、いずれも見事である。ケージの鶏群は五〇〇羽とかこれらはいずれも配合飼料の給与飼育試験を実施中とのことである。徹底した会社の仕事振りである。

大農具類、温室、花壇、果樹園、池あたかも理想的牧場、夢の農業を想わせるものあり、出納さんの建てられた西欧風の古びてはいるがガツチリした住宅も若い場員の方々の寮として利用せられており名残りは

つきなかったが、「酪聯発祥の地」の記念碑前での撮影を最後に辞することとした。

### ○宇都宮牧場の見学

北海道におけるホルスタインのブリーダーとして町村牧場と共に余りにも有名であるこの牧場はさすがに立派で日本離れしていることさえ思われた、良く出来た牧草地と飼料作物、手入の行き届いた牛舎と附属施設、繁殖牛、育成牛、種牡牛、輸入種牡牛等の乳群は真に偉大で立派なものばかり、当牧場産の若い牝牛大小無数と言いたくらいで、いずれも一頭一〇〇万円以上で売却済みというので二度ビックリ。最後にサイロと香り高い光沢あるうす緑をたたえた牧草等を見せていただいたが、このような立派な飼料が健康な牛のもとであることを知らされた。

### ○月寒の農林省北海道農試畜産部

車は広大なる原始林と牧草地をもつ畜産部へ。この面積は凡そ一、〇〇〇町歩とか。なだらかな緑の牧草地を望みつつ展望台へ到着。幸い群れ遊ぶ羊群と番犬コリーの姿も見ることができて、パチリパチリとカメラマンは活躍。一望千里、この展望はまことに北海道ならではの景観であり、羊群声なく牧舎に帰る……という北大の寮歌の一節が想い出される。

### ○定山溪へ

途中から静かに降り出した小雨にけぶる定山溪温泉の宿は白樺の林に囲まれた静かな宿で旅装を解き慰めるにはふさわしい宿であり、ここでも雪印種苗の歓待で楽しい一夜であった。北海道は美人が多いね、等といって冷かされた。

二十四日朝は快晴にめぐまれた。窓辺越しに見る石けい山肌、朝もやに包まれた真夏の深山、清澄な川の流れ、東京周辺の

むし暑い夏とは比ぶべくもない素晴らしい大自然である。

○午前九時半札幌産業観光コースの人となつて

札幌テレビ塔下を出発したバスは、一行を乗せて時計台―北大クラーク先生像―ポプラ並木―日本ビール札幌工場―雪印乳業札幌工場―北大植物園、円山、中島公園等四時間に亘って観光見学の後テレビ塔展望台で札幌市内を展望した。乳業等いろいろな附記したいこともあるが省略しよう。

### ○雪印種苗本社へ

五十嵐専務にお会いして遠来の勞を慰められると共に、今日迄の苦心談とこれからの理想等をきかされて感激、成功の陰に偉人ありと頭に浮かんだ。ここで上家支店長、前田部長にも面談の後、種子の心臓部である工場の乾燥機、精選機、倉庫、燻蒸庫、原種保存庫から発送部、通信販売部、発芽試験設備等を見学、一粒の種子が育種生産からわれわれ農家の手に入る迄の数々の工程を見せられ教えられて、今更のよう

に深く反省した次第である。その後幹部の方々に案内されて郊外のりんご園に囲まれた小高い丘の百景園にて薄暮に包まれネオンにまたたく札幌の夜景を眺望しながらジーンギスカン鍋に楽しい時を過ごし、札幌の宿、雪印札幌会館に落ちつく。

### ○名残り惜しく解散

二十五日朝、訪ねて下さった生産課長と種々懇談の後、夏の陽が照り映える札幌市大通公園を逍遙の後、数多い教訓と想い出を残してお別れすることにした。感謝あるのみ……（以下略）以上で見聞記も終わりたい。